

24. スマート農業技術活用促進総合対策

令和9年度予算概算要求額 9,356百万円（前年度 341百万円）

<対策のポイント>

現場課題の解決に向けて、ロボット、AI、IoT等の先端技術を用いた省力化・効率化を可能とするスマート農業技術の開発・供給を推進するとともに、スマート農業普及のための環境整備を行い、スマート農業の社会実装に向けた取組を総合的に展開します。

<事業目標>

スマート農業技術の活用割合を50%以上に向上〔令和12年度まで〕

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. スマート農業技術の開発・供給促進事業 8,800百万円（前年度－）

スマート農業技術の開発・供給を加速化する取組を支援します。

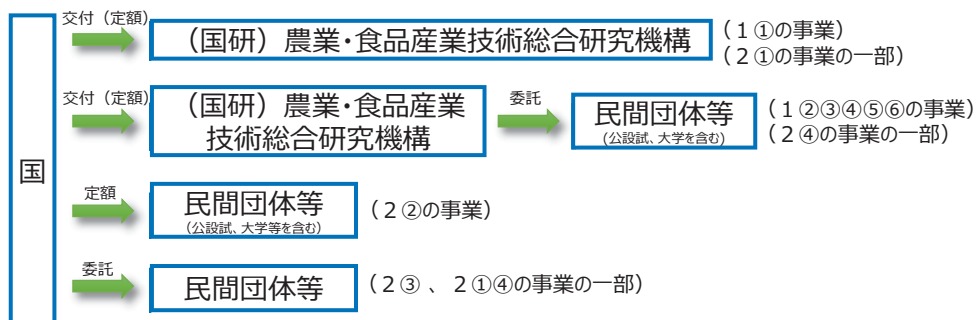
- ①重点課題対応型研究開発（農研機構対応型）
- ②重点課題対応型研究開発（民間事業者対応型）
- ③低コスト・小型化等現場ニーズ即応型開発
- ④先行的研究開発支援
- ⑤技術改良・新たな栽培方法の確立の促進
- ⑥スマート生産方式SOP（標準作業手順書）作成研究

2. スマート農業普及のための環境整備 556百万円（前年度341百万円）

スマート農業を普及させるための環境整備を行います。

- ①農林水産データ管理・活用基盤強化
- ②農林水産業におけるロボット技術安全性確保策検討
- ③次世代の衛星データ利用加速化事業
- ④スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）の運営

<事業の流れ>



技術開発・供給

普及に向けた環境整備

1. スマート農業技術の開発・供給促進事業

①農研機構による
基幹的・基盤的研究開発

【基幹的技術の例】汎用型ベース機

【基盤的技術の例】AI開発用教師データ

②民間事業者による
重要・高難度な技術の研究開発

【例】自動制御技術等を活用した、定植等の作業管理機

③中山間地域等の生産現場のニーズを
踏まえた即戦力となる低コスト・小型化
等の技術の研究開発

【例】中山間地域向けの
管理作業機の小型化
(非乗用型への転換など)

④AIやロボティクス等のユニークな技術
シーズを有する高専や職業能力開
発大学等と民間事業者が連携し
た研究開発

【例】独自の発想に基づき
開発されるシンプルな
トマト収穫ロボット

⑤開発事業者とサービス事業者が連携
した技術の質的向上や技術に適合し
た新たな栽培方法の確立

【例】技術のユーザビリティの向上

⑥技術の導入効果を着実に発揮させる
栽培体系やサービス事業者を介した技
術の運用方法等の検証、SOPの作成

【例】自動収穫ロボットの導
入効果を最大化するための栽
培管理体系の確立、アプリ化

2. スマート農業普及のための環境整備

①農林水産データ管理・活用基盤強化

WAGRI AI ukabis

データ連携基盤（WAGRI・ukabis）、
AI、オープンAPIの活用を推進

農業者のデータ活用による
生産性向上等の実現

②農林水産業におけるロボット技術安全性確保策検討

ロボット農機（無人） 有識者委員会

遠隔監視による自動走行の
安全技術等の検証

安全性確保策の検討

③次世代の衛星データ利用加速化事業

衛星データ活用技術の横展開
・衛星活用技術の試験的導入
・利活用のマニュアル作成
・利活用事例の情報発信 等

衛星データの新たな
利活用に向けた
適用可能性調査

④スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）の運営

生産
の
革
新

IPCSA

技
術
等
の
開
発
・
供
給

スマート農業の社会実装・実践

【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究推進課 (03-3502-7462)